

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に、文部科学省が実施しています。※この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の特定の一部であり、学力や学習状況、学校の教育状況などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査

☆成果

国語科においては、関係する複数の資料を読み取り、資料への表し方や資料への気付きを、正しく選択することができ、全国平均をやや上回りました。また、目的に応じて、必要な情報を選択し、自分の考えをまとめることについても、全国平均をやや上回りました。

算数科においては、「数と計算」の領域である、異分母の分数の加法計算において、全国平均をやや上回りました。算数科の授業は、チームティーチング体制で、教材を分かりやすく、視覚に訴えながら、基礎基本の定着に力を入れてきました。

理科においては、電流がつくる磁石について、巻数と強さの関係や乾電池のつなぎ方を正しく選択し、全国平均を上回りました。理科は1つの解答以外は、無回答が0%でした。日々の授業においても、実験を大切に、学びの定着に努めてきました。

☆課題

国語科においては、文章を読み取り、その構成を考えることについて、課題が見られました。また、文章の中で、正しく漢字を使用することについても、課題が見られました。

算数科については、平行四辺形の作図や台形の性質の正しい理解等、図形領域について、課題が見られました。また、「測定」領域のはかりを正しく読み取ることについても、課題が見られました。

理科については、電気を通すものと通さないものを見極めて、電気の回路について選択するものや水が氷に変わる温度を根拠に、日常と結び付けて表現するものについて、課題が見られました。

☆今後の授業改善に向けて

国語科については、根拠を大切にしながら、読みを深めていく力や幾つかの資料を結び付けて考える力、そして、時間の中で資料をしっかり読み切る力を授業や読書指導を通して付けていきます。併せて、熟語や修飾語、ローマ字等、言葉の単元を大切に扱い、繰り返し、時には宿題に出しながら、力を付けていきます。

算数科では、答えを出すだけでなく、自分や友達の考えを言語化させ、理解を確実にしていきます。また、図形の作図や表の見方、はかりの読み取り方等体験を重視し、学びを広げ深まるよう、目的を明確にした交流を行います。チームティーチング体制のよさを生かした授業展開を考え、授業を行います。

理科では、実験や体験を重視し、器具の扱いとその手順に慣れるようにしていきます。相違点や条件に注目し、問題解決を行えるよう、その過程を大切に行うようにしていきます。学んだことと日常生活とを結び付けて、おもしろさとながりを意識させていきます。